



JT 生命誌研究館見学と芥川宿散策

JT 生命誌研究館を2時間のプログラムで見学した後、すぐ近くの西国街道芥川宿を散策し、1時頃には JR 高槻駅で解散という、午前中だけの企画といたしました。

周辺には由緒ある寺院などもありますので、午後のプログラムも考えましたが、昼食場所となるのが芥川堤しかなく、桜や鯉のぼりで有名な公園ではありますが日陰が少なくトイレがひどい状態です。暑いさなかのことですので、無理をしないでおこうと判断しました。

雨天決行とします。

- ・日 時 2023 年 8 月 10 日 (木)
- ・集 合 9 時 40 分 JR 高槻駅 中央改札口前
(阪急高槻市駅からでしたら、商店街を抜けて5～6分です。)
- ・持ち物 水筒、雨具、帽子、日傘など。
- ・行 程 約2～3 km



- 9:40 JR 高槻駅集合
- 10:00 JT 生命誌研究館着。ミニレクチュア・館内見学・屋上の食草園見学 (2時間のプログラム)
- 12:10 西国街道芥川宿散策 約400 mを往復
- 13:00 JR 高槻駅解散

JT 生命誌研究館

1993 年に設立された、生命科学に関連した研究と展示を行っている、JT (日本たばこ産業) 運営の企業博物館。体験・観察会、文化人とのコラボ講演会などのイベントも多く企画している。

現在の館長は、細胞生物学者でありかつ歌人としても著名な永田和宏氏。

屋上の食草園には、チョウの種類ごとに異なる幼虫の食草と、吸蜜のための花木が多量に植えられている。どのチョウが、どの草木に卵を産み幼虫が育つのか、説明いただける予定。

西国街道芥川宿

西国街道のうち、山崎から西宮までは山崎通 (みち) と呼ばれ、山崎・芥川・郡山 (樺の本陣)・瀬川・昆陽・西宮と宿場が続いている。芥川宿は、山崎から2里、郡山まで2里の位置にあり、本陣や問屋が設けられていたものの、大名行列としては休憩所的な宿場であったようだ。とはいえ江戸後期の絵図には旅籠が建ち並び、賑わっていた様子がうかがえる。

一里塚：もと道の左右一対のものであったが、片方は早くに失われた。何代目かの榎がそびえている。山崎通で現存する唯一の一里塚。三宝大荒神がまつられている。

愛宕燈籠 (文政 5 年、1822) : 「愛宕講」が組織されていたなごり。地元で守られてきた地蔵尊がある。

金毘羅燈籠 (文政 12 年、1829) : 金比羅参りの人たちのための燈籠。金刀比羅宮のある象頭山まで63里半 (254 km) とある。

水門跡：宿場の西口にあたる。芥川は天井川であったため、増水時に止水板をはめて宿場への浸水を防いだ。

このほか、旅籠時代から続いているという亀屋旅館や虫籠窓の家も少し残っている。別紙の芥川宿絵図は文化 4 年 (1807) に作成されたもの。解説書にあった書き起こし図も添えた。(一里塚や地蔵堂、芥川の流路がわかりやすい。)



芥川宿一里塚

担当 C グループ 福嶋 (明)、万井